

消費者教育推進専門員だより

県消費生活センターでは、消費者教育推進専門員を配置し、学校等での消費者教育の進め方についてアドバイスを行ったり、直接学校等に出向き、出前講座を実施しています。

特に、2022年4月からの成年年齢の18歳への引き下げに伴い、若者の消費者トラブルの増加が懸念される中、今年度から県立高校において小冊子「社会への扉」を活用した消費者教育講座（出前授業）を重点的に実施しています。

また、夏休み期間中には小学生を対象に、着色料・糖度・ビタミンC調べ、保冷剤を使った芳香剤づくりなど、体験テスト教室も開催しています！

《高校生向け消費者教育講座》

消費者が主役の世界へ～自立した消費者になろう～



(県立内子高校)



(県立小松高校)

《夏だ!わくわく!体験テスト教室》

(キッチンサイエンス～いろいろ試してみよう)



水に浮かんだごしように
台所用洗剤をたらすと…
どうなるかな？

出前講座ほか各種啓発活動のお問い合わせ・お申し込みは、
愛媛県消費生活センターまで!!

☎089-926-2603 (お申し込みは、原則開催希望日の2か月前までをお願いします。)

消費者トラブルで困った時は、一人で悩まず相談しましょう!

愛媛県消費生活センター 相談専用電話

相談時間 月・火・木・金 9:00～17:00
水 9:00～19:00(祝日・年末年始を除く)

☎089-925-3700

消費者ホットライン

(お近くの相談窓口につながります)

いやや!

☎188

発行: 愛媛県県民環境部県民生活局県民生活課
〒790-8570 松山市一番町四丁目4番地2
TEL:089-912-2336

愛媛県消費生活センター
〒791-8014 松山市山越町450番地
TEL:089-926-2603

～見て・聞いて・感じる～

「おもいやり消費ランド」を開催しました

世界中で深刻な飢えや栄養不良が問題となっている今、本来食べられるのに捨てられている食品＝「食品ロス」を削減しましょう! 私たちの日々のこころがけ「おもいやり消費」は、未来を変える力を持っています。

2019.11.30 開催 in エミフルMASAKI
約3,000人のみなさんに参加いただきました!



《オープニングセレモニー》

松山大学「南風会」による
書道パフォーマンス



《消費者トラブル対策講座》

「食品ロス削減に向けて」



《トークセッション》

「食品ロス削減に向けて」



《活動発表》

「ふれあい食堂に参加して」
松山東雲短期大学 食物栄養学科



《ミニミュージカル》

「ミンナ愛顔」坊っちゃん劇場アウトリーチ事業部



《トーク&ライブ》

韓国・ソウル出身のJ-POPシンガー・ソングライター Kさんをゲストに、食品ロス削減についてお話を伺った後、ミニライブを行いました。

キャッシュレス時代に向けた金融教育

ファイナンシャルアカデミー
広報部エグゼクティブマネージャー／講師
福田 祥子

「ポイント還元」に「ペイ活」。キャッシュレスは群雄割拠時代に突入！

消費税増税に伴いスタートした「キャッシュレス決済のポイント還元施策」。お店に貼られた赤いマークを見つけては「ここでもポイント還元、やってるんだ」と感じる日々ではないでしょうか。最近では「ペイ活」という言葉が生まれるほど企業によるスマホ決済サービスも盛んで、私たちは「キャッシュレス群雄割拠時代」のど真ん中にいると言えるでしょう。

さて、みなさんはキャッシュレス派、現金派、どちらですか？先日行った県内の教職員の方々向けのセミナーでは、現金派の方が多い印象でした。どちらが良い悪いという話ではないのですが、今後私たちの住む日本で、キャッシュレスに関してどのような動きが想定されるのかは、どんな人でも正しく知っておく必要があるでしょう。

そもそも日本が「キャッシュレス化」を推進する理由をご存知ですか？

みなさんは日本が「キャッシュレス化」を推進する理由をどのように捉えていますか？政府発表の情報を紐解くと、実はいくつも理由が述べられているのですが、その根底にあるのはズバリ「日本の人口減少」だと言えます。先日のセミナーでも同じ質問をしたところ、多くの方が東京オリンピックをはじめとする国際イベント時の「インバウンド振興」をイメージされていたのですが、これはたくさんある理由の一つでしかないのです。

今後どんどん労働人口が減少する日本が世界で生き残るためには、キャッシュレス化による労働効率向上・コスト削減が欠かせません。また法令は遵守しつつも、消費活動というビッグデータを活用したビジネス創出も不可欠ですし、金銭のやり取りを透明化することでさらなる税収を確保したい狙いもあるでしょう。これらを知るとキャッシュレス推進に多額の予算が割かれることも納得ですね。

ちなみに日本は「キャッシュレス後進国」と言われることが多いのですが、果たしてどの程度遅れているのでしょうか？経済産業省発表のデータ(*)では、2016年時点での各国のキャッシュレス決済比率は、日本が19.8%だったのに対して、アメリカが46.0%、イギリスが68.7%、そしてお隣韓国は96.4%まで進んでいることが明らかになっています。2020年現在は日本の数値も大幅に変わっていることが予想されますが、それでもまだ伸びしろは大きそうです。

キャッシュレス化の勢いは止まることを知らず。見えない「お金」をどう教える？

これらを踏まえると日本のキャッシュレス化が今後さらに進むことは間違いなさそうですが、そんな中で課題になるのが「見えないお金」との付き合い方。特に子どもたちに対する「お金の教育」となると、お手上げ状態の保護者も多いでしょう。キャッシュレス時代の「お金の教育」のポイントはズバリ「現金を使う体験でお金の扱い方を身につけること」です。

思い出してみてください。小学校に入学した頃の頃、計算を学ぶ前におはじきで数の概念を学びませんでしたか？あれと同じです。キャッシュレスというデータのお金を扱う前に、まずはお金とは何か？を知る必要があります。ですが、その機会が今の時代は減りつつあると言えます。私の子どもの頃は100円を握りしめて駄菓子屋さんに行き何を買うかあれこれ悩んだものですが、核家族化・共働きが進む中、買い物といえば家族で行く週末のスーパー、お会計は親御さんがまとめて一括カード決済。こうなると子どもたちは自分で考えてお金を使う経験を積むことができません。お金の概念が培われない段階で、キャッシュレス決済が当たり前になると、お金が単なる数字の羅列になってしまい、価値がわからずうまく扱えないということにも陥りかねないので、意識的に現金を使う経験が重要だと言えます。

お金を使う際に大切なポイントは「計画性」と「価値のある使い方ができたか」の2つです。簡単な計算ができるお子さんであれば一定金額のお小遣いを渡し、買い物計画を立て、そこから使う体験を重ねるのが良いでしょう。また衝動的に買うのではなく、そのお金の使い方が自分にとって幸せを感じられるものを5点満点でジャッジしてみることもお勧めします。このように毎回少し立ち止まってお金の使い方を考える習慣は、実は大人こそ必要かもしれませんね。

現金をうまく扱えるようになったら、キャッシュレス化は怖くありません。むしろ消費活動がデータ化されることで管理がしやすくなるメリットもあります。大切なのはお金を正しく扱える「お金の教養」。今こそご自身のお金との付き合い方を振り返るタイミングではないでしょうか？

※引用元：

https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/shoryu/credit_carddata/pdf/009_03_00.pdf

